

	年齢	性別	世帯	概要	対応
1	80代	女性	独居	認知症で独居の救急搬送された方への退院支援	親族への金銭管理支援と汚染された室内の搜索等
				認知症、独居（室内汚染あり）親族は都内の姪のみだがここ2年程交流はなし。 年金7万/月（家賃5万）生活保護は拒否していた。高サポにて見守りを継続していたが、R6.12.28自宅でぐったりした状態で発見された。本人は救急搬送拒否したため姪へ連絡。姪が救急搬送を希望され入院となった。	ご本人は認知症があり、姪もやや理解力が低かったため、病院と姪との間に入って退院調整に高サポが介入。退院カンファレンス同席や、姪への説明を行った。姪が本人の金銭管理をできるよう金融機関の確認や本人を金融機関へ同行する等をサポートした。また、通帳の印鑑がなかったため汚染された部屋で印鑑を探すサポートを実施した。
2	90代	女性	独居	認知機能低下と医療受診を拒否し続けている中で、救急搬送された方への退院支援	退院後の施設調整（継続中）
				長年医療を拒否、宗教的な背景がある方。身寄りもなく生活保護受給中。認知症初期集中支援チームの支援を受けながら、訪問診療・訪問看護を開始したが、基本的に介入に拒否傾向があり、冬場に低体温症で動けなくなった所を発見され、救急搬送し入院となった。重度の貧血があり治療を要する状態であった。	宗教的な背景から医療信条があり、それに加えて金銭問題や本人の医療受診拒否から受け入れられる施設が限られていた。高サポが交渉を続けたが調整できず、一旦転院となった。（その後も退院支援を継続）
3	80代	女性	同居	本人・長女ともに精神疾患があり救急搬送となった方への退院支援	施設入所を視野に退院調整を行った
				本人・長女ともに精神疾患あり、長女と2人暮らし、生活保護受給中。家族内でサポート体制がない中、自宅で数日動けなくなっていたが、長女はそれを理解できず、訪れた支援者が発見し救急搬送、脱水と栄養失調のため入院となった。	在宅での介護は見込めず、長女の来院も困難な状況。本人も妄想やとめどない独語などから理解困難、本人と長女の橋渡しと施設入所に向けて高サポが介入し調整や手続き支援を行った。 金銭管理についても長女はまったく行えず、説明をしながら、生活支援課と共に支払いや手続き等の支援等を行った。
4	80代	—	—	退院後、介護保険サービスへ繋ぐ際に待機となり苦情となったケース	ケアマネジャーに繋がるまで高サポが介入支援
				80歳代、要支援2の認定。大腿頸部骨折にて入院。リハビリ後に自宅退院予定。 病院の担当MSWより、退院後に歩行器のレンタル、訪問リハビリの利用のためケアマネ探しの依頼が入った。ケアマネ探しの待機者が多いため時間がかかる旨を説明すると、ケアマネが見つからず制度が使えないのはおかしい、と言われた。	・MSWの依頼にてキーパーソンの甥にケアマネジャーが見つからないことなどを説明。 ・本人にも可能な限り丁寧な説明をし、ひとつひとつ本人に了解を得たうえで対応。 ・担当の作業療法士に本人の状況を確認後、シルバーカーの購入を提案。 ・退院後は早めに自宅へ訪問し、ケアマネジャーが見つかるまで電話などで状況確認を行った。
5	70代	—	—	退院後、介護保険サービスへ繋ぐ際に待機となり苦情となったケース	代替サービスの提案
				大腿骨頸部骨折にて入院しリハビリ後に自宅退院予定の要支援2の方。MSWから退院後の福祉用具レンタル希望でケアマネジャー探しの相談と、家屋調査の同行依頼があった。ケアマネジャー探しの待機者が多いため時間がかかる旨を説明したところ、退院後の生活についての不安から強い口調で詰め寄られた。	・自費での福祉用具レンタルについて説明・提案をした ・家屋調査の際に理学療法士や作業療法士等のリハビリ専門職と、本人の状態に合わせた退院後の対応を検討した。 ・ケアマネジャーが見つかるまで福祉用具のレンタルは待つことになり、その間は病院から松葉杖を借りることとなった。
6	80代	女性	独居	血糖コントロール不良で入院となったが近隣トラブル等もあり退院支援が困難なケース	介護サービスの調整
				ベランダや屋外で一人叫び続けることがあり、近隣2件からも通報あり。糖尿病の悪化で教育入院を繰り返している。定期診察で血糖コントロールが悪化していることが判明し、計画入院となる。入院時も服薬管理ができないことから、服薬管理支援と看護師による注射が必要となる。	ケアマネジャー・訪問看護導入などの介護サービス調整を行った。退院カンファレンス時も本人の理解は追い付かず、様々なことを勘違いしてしまい激怒したり、電話等での訴えが多かったが、その都度説明を行いながら在宅退院となった。（認知症や精神疾患が疑われた）
7	—	—	—	他市へ救急搬送され入院費用が支払えない方の退院支援	支払いのための支援
				転倒し救急搬送や入退院を繰り返しており、その度に高サポが安否確認や状況確認で関わっていたケース。これまで介護保険サービスを頑なに拒否していたが、本人が困ったタイミングでケアマネに繋いだ矢先に救急搬送され、市川市から車で1時間ほどかかる病院に入院となった。自宅退院方針だが手持ち金がなく、キャッシュカードの暗証番号を間違えてロックがかかっていて下ろせない。家族に連絡は取れず、自宅内はゴミ屋敷で通帳を探すことは不可能。お金がないため、自宅までの移動手段がない状況。	病院近くには銀行がなく、病院側も銀行に連れていく等の対応等はしない方針。ケアマネが本人の面会に行き、ADLや支払いの事など今後の方針を確認予定。移動方法に関してはケアマネ・市・高サポで検討し、介護タクシーを利用し途中で銀行に寄り窓口手続きをして支払う計画とした。ただ、口座残高が不明で、支払いできるかまでは不透明。高額医療制度の申請について、病院から確認はあったがその後申請しているかの連絡がない。本人は他市病院におり、他市包括に支援依頼していいものか対応に困っている。